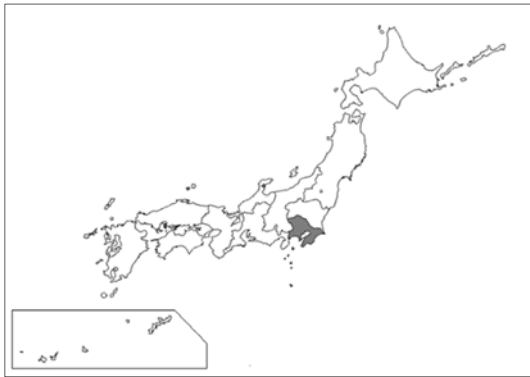


(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

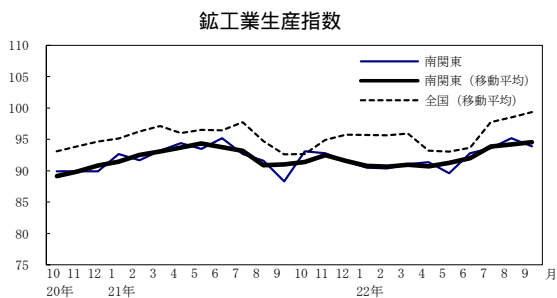
前回からの主要変更点

	前回 (令和4年9月)	今回 (令和4年11月)	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7－9月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」や「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により、前期比3.3%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。
 直近月は2か月平均。
 3. 南関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.2	▲2.1	0.5	1.9	0.9	▲5.8
輸送機械	14.1	5.2	5.3	1.6	0.5	▲3.7
汎・生産・業務用機械	13.7	3.0	5.9	1.1	4.5	▲2.3
電子デバ、電気・情報通信	12.6	▲0.8	6.9	2.7	▲0.8	0.3
食料品・たばこ	12.4	▲0.3	—	▲0.3	3.5	—
鉱工業	100.0	0.7	3.3	0.9	1.7	▲1.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 7－9月期、9月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

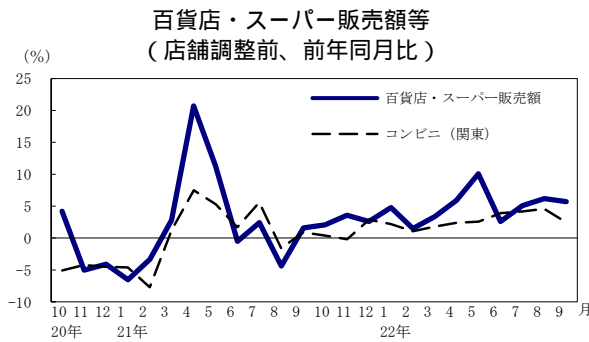
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDE I (消費))

7-9月期は前期比0.9%増となった。月別にみると、7月は前月比0.1%減、8月は同0.3%増、9月は同0.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比5.6%増となった。月別にみると、7月は前年同月比5.1%増、8月は同6.2%増、9月は同5.7%増となった。



	2022年7-9月	2022年7月	8月	9月
RDE I (消費*1)	0.9	▲0.1	0.3	0.5
百貨店・スーパー(*2)	5.6	5.1	6.2	5.7
コンビニ(*3)	3.8	4.2	4.6	2.5
乗用車(*4)	0.2	▲10.5	▲11.3	23.8
(季節調整値) (*4)	2.5	4.0	▲2.0	▲1.7

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

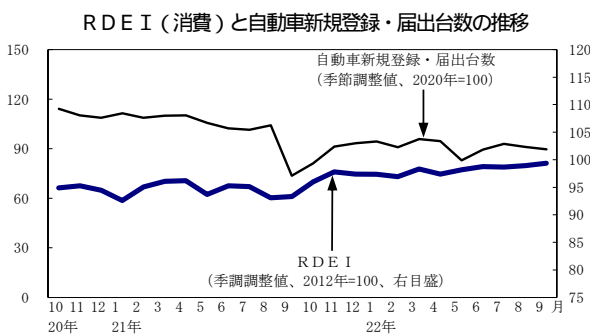
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

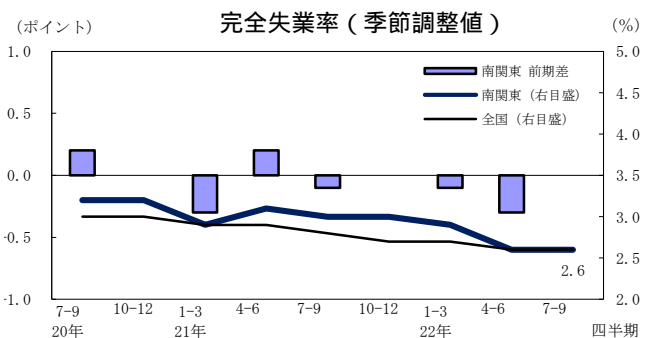
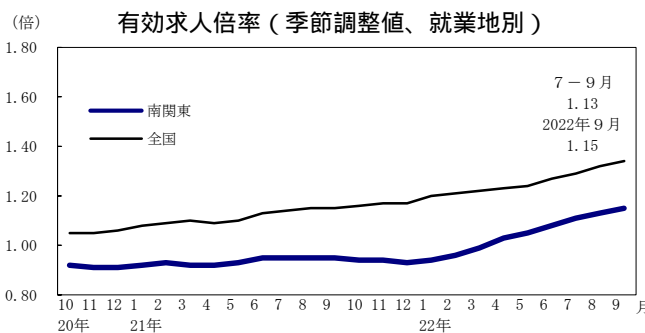
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年10月調査）景気判断理由の概要

4. 南関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	□
○			・日本人の旅行客、インバウンドの来客数が増えており、天候も安定しているので、景気が上向きになっている（一般レストラン）。
▲			・10月に入り、各種の値上げにより、今まで使っていた化粧品などのランクを下げる客が出てきている。値引き施策を行って、やっと前年並みである（その他専門店 [ドラッグストア]）。
企業 動向 関連		□	・繁忙期に入っているが、物量が思った以上に増えない。また、燃料価格の高騰が影響して収益が伸びない（輸送業）。
		▲	・ロシアのウクライナ侵攻やエネルギー価格の上昇、急激で行き過ぎた円安と、経済環境が悪い（金属製品製造業）。
		○	・半導体不足の影響はあるものの、自動車メーカーの生産は徐々に回復している（輸送用機械器具製造業）。
雇用 関連	□	・派遣、紹介共に依頼は堅調だが、人材が不足しているため、業績になかなか結び付かない（人材派遣会社）。	
	○	・ほとんどの業種で前年と比べて新規求人が増加している。特に、人手不足分野である医療、介護、警備の求人が大幅に増えており、企業等の採用意欲の回復がうかがえる（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			◎：全国旅行支援の開始に伴う需要増加が顕著に表れている（都市型ホテル）。 ○：10月になり行事が増え、需要が高まっている。新型コロナウイルス感染症が若干落ち着いた様子で、様々な規制が緩和された影響がある（一般小売店 [祭用品]）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連	□	・人の動きや消費意欲は確実に改善されてきているが、物価の上昇による生活防衛意識の高まりや、年末に向けて予想される新型コロナウイルスの感染第8波など、不安要素は多い（百貨店）。
		○	・東京でGo To Eatが再開されるため、今後は飲食需要が更に伸びることが見込まれる（その他飲食 [居酒屋]）。
	企業 動向 関連	□	・向こう3か月の景気動向については、やはり政府の経済政策や値上げの状況が分かるまでは余り大きく好転することはない（プラスチック製品製造業）。
		▲	・客足が戻り、売上増加を期待できるが、諸物価の上昇が続き、収益の悪化をカバーしきれない（不動産業）。
雇用 関連	□	・新卒採用マーケットは景気変動に対して1～2年くらい遅れて変化が現れる。しばらくは静かな推移が続くのではないかと（民間職業紹介機関）。	
その他の特徴 コメント			□：全国旅行支援で仕事は復活したが、煩雑な作業量が従来の数倍となっている上、支援値引きの立替えなど利益なき繁忙となっている。支援終了後の反動が心配である（旅行代理店）。 ▲：急速な円安に伴い、輸入コストの上昇が利益に影響を与えつつある（衣料品専門店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（南関東）の推移（季節調整値）

